

1975.8.30  
京都  
個人が不戦の意志を

パグウォッシュ会議に思う

平和を求める京都でのパグウォッシュ会議の開催を歓迎はして、も、それによって期待は置かなく、美にちなんで感嘆を感ぜざる。もとの、パグウォッシュ会議の意義を無視するわけにはない。しかし、それが平和のめざらねるものではないからである。

5つの戦争でも、一握りの政治家に、市民を戦争に動員させようと、家たの、人民が動員されて行われる。それだけ政治家が力を持つてゐるわけであり、それに対抗するだけの力を、パグウォッシュ会議の議長たちは持ち合わせている。か、第一の問題である。核軍縮の話し合いも、その力の対峙である運動の重要ではないか。

常に人民の声が政治に反映されるべきである。戦争が計画されて、それと容赦なく送込まれる。それを同様パグウォッシュ会議も、どこか遠くで行われる。戦争のよつた苦しみを免れぬ。

(1) 石原区・会社員・大矢勝進・

c092-17-023